



沖縄県医師会の皆様と、琉球大学医学部の関係が実り多いものになるよう努めて参りますので、よろしくご指導お願い申し上げます。



琉球大学大学院医学研究科長 医学部長
松下 正之 先生

質問 1. 琉球大学医学部長ご就任おめでとうございます。ご就任に当たってのご感想と今後の抱負をお聞かせ下さい。

平成 25 年 4 月 1 日付で須加原前医学部長を引き継ぎ医学部長に就任しましたが、医学部は大学改革の最中にあり、慎重な舵取りと非常に重い責任を負っていると思っています。医学部長の職を務めて日は浅いのですが、様々な問題に直面し、その都度その対応に追われているのが現状です。しかしながら、諸問題への対応と同時に希望ある医学部の将来ビジョンを実現化すべく、産学官の多方面の方々とできるだけ多くの話し合いの機会を持っています。皆様とお話しする中で、琉球大学医学部は、南に開かれた地政学的要因、個性豊かな教員、優れた学生などにより発展の余地、潜在能力が高いことが話題になります。私の役目は 10 年先を見据えた改革を行い、琉球大学医学部医学科、大学院医学研究科、附属病院の潜在能力を引出し、沖縄の地域医療に貢献すると同時に、先端医療や医学研究成果を世界に向け情報発信できるよう取り組むことだと考えています。

質問 2. 貴学部での、臨床、研究、人材育成について今後の課題、方針などについてお聞かせ下さい。

昨年より文科省と「琉球大学医学部のミッション」について協議をしてきました。その中で、医学部の果たすべき役割について、これま

での実績を踏まえて、研究（大学院）、医学教育（人材育成）、附属病院（臨床）のそれぞれについて、我々の目標を定めました。

大学院医学研究科ですが、ミッションに基づき沖縄の健康長寿の機序解明、亜熱帯特有の疾患の病態解析などのプロジェクトに基づいた大学院教育指導体制の確立を目指した改組への取り組みが進行中です。大学院改組により、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上、国際貢献等を目指すとともに、次代を担う人材の育成を目指しています。

医学科については、医学の進歩やグローバル化に対応した学部教育の改革を進めています。これまでの講義中心の授業から、学生自ら学ぶ授業への変革が迫られています。医学部は設置されて 30 年以上が経過し、沖縄県内の 40% 以上の医師は琉球大学医学部医学科の卒業生です。今後もその割合は増加し、卒業生の沖縄県の医療に対する役割はますます大きくなります。医学科では、倫理観を持ち生涯学び続ける心を持った医師を育てなければならないと考えています。

附属病院に関しましては、県内唯一の医育機関及び特定機能病院としての取組や都道府県がん診療連携拠点病院、第一種・第二種感染症指定医療機関等としての取組を通じて、沖縄県における地域医療の中核的役割を担い、先進医療や臨床研究に取り組む必要があります。さらには、今後の医療の発展に対応した臨床機能を持

たせることも必要であると考えています。

質問 3. 新病院構想があると伺っておりますが、どのような構想でしょうか、可能な範囲でお聞かせ下さい。

新病院の建設に向かって基本構想を検討しています。琉球大学医学部の将来を左右する一大事業になります。沖縄の先進医療を先導し、東南アジアとの医療における懸け橋になる病院にできればと考えています。医学の進歩は目覚ましく、将来の移植・再生医療やゲノム医科学の発展にも対応できるよう検討を行っているところです。西原の丘の上に、沖縄県民の健康福祉のシンボルとなる病院の建設を目指していますので、医師会の皆様のご協力とご支援をお願い申し上げます。

質問 4. 昨年、おきなわクリニカルシミュレーションセンターが開設されました。現在の利用状況、どのようなトレーニングが行われているかお聞かせ下さい。

おきなわクリニカルシミュレーションセンターの利用状況ですが、2012年度の利用総数約14,000人で月平均1,150人になっています。その内訳ですが琉球大学医学部および附属病院の利用が全体の66%で琉大以外の県内30%、県外4%です。職種別の利用では、看護師、医師、医学生の順となっています。現在のトレーニングの内容は1) 基本的手技、2) 学生授業、3) 救急・災害、4) 指導者養成、5) 専門的手技が主なトレーニングです。また、他職種での急変対応トレーニング、安全・感染対策トレーニング、医師および看護師の復職トレーニング、診療所対象トレーニングなどを展開しています。さらに、専門医のための、ICLS、ACLS、JTEC、ALSOなど、さまざまな既存コース開催も当センターが支援していますので、ぜひご利用ください。

質問 5. 県医師会に対するご要望がございましたらお聞かせください。

沖縄県医師会の皆様には、日頃から医学教育や卒後臨床研修で大変なご支援とご協力を頂いています。この場を借りて、御礼を申し上げます。診療や医学研究の分野でも、多方面でそれぞれの得意な分野を生かした協力体制が構築できる機運があると思いますので、ぜひお声をかけて頂きたいと思っていますし、今後は医学部のほうからも積極的に医師会の皆様に臨床研究などでアプローチをさせていただきますのでご協力をお願い申し上げます。沖縄県医師会員の皆様と琉球大学医学部で有機的な連携体制を築き、沖縄を健康長寿の島として復興させることを願っています。

質問 6. 最後に日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせ下さい。

私はスポーツが好きで、学生時代も勉強していたのかクラブ活動をしていたのか判然としないような状態でした。沖縄でもサイクリングなどしていたのですが、半年ほど前にアキレス腱を断裂しました。現在、リハビリ中で運動ができないのが残念です。

座右の銘は「一期一会」でしょうか。私は国内外の大学や企業を転々としてきましたが、その時々でかけがえない人々と出会っています。その出会いの中で、私の人生も大きく影響されていることがこの年になると実感されます。人との出会いは、なによりも貴重であり大切にしています。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 金谷 文則